

# Libra | on

vol. 44

<http://www.libra-sc.jp>

りぶらいおん

## 特集：「困ったときには図書館へ」開催報告 12/4 「病気（がん）と図書館」

2月5日  
「外国人が日本語の歌を歌う  
のど自慢大会 vol.7」を  
開催しました!!



- りぶら中央図書館情報
- 私の一冊 vol.39 『赤毛のアン』
- 市民活動団体紹介
- 「外国人が日本語の歌を歌うのど自慢大会 vol.7」開催報告



## 「困ったときには図書館へ」開催報告

### 12/4 「病気（がん）と図書館」

2016.7.1  
th  
ANNIVERSARY  
KAZAKI  
岡崎市制施行100周年

#### 金田 亜可根 氏 「病気（がん）と図書館」



私は、生後3ヶ月の息子の死でいのちのむろさを知り、44歳のとても親しい友人を大腸がんで亡くしたことで、看取りの重さを思い知りました。友人はアートが大好きで、「退職後の60歳からが自分の人生」と語っていました。そのような彼に、死生観を持たずにいた私たちの誰もが、彼に余命を告げられなかったのです。

その看取りで知ったことは、本当に当たり前の事であった「病院は治療するところで看取りの場ではない」ということでした。そして、様々な学ぶうちに「ホスピス」という言葉の意味するところを知り、「いのちと医療の関わり方」について考えるようになりました。

いのちと医療を考えるには、ひとり一人の答えが必要です、ひとり一人の答えを実現するには、皆で考えることが必要と思い、「いのちと医療と市民を結ぶ試み」として、2000年に「ホスピス研究会OKAZAKI」を立ち上げました。

治すことが中心の病院では、治療の終わりがその患者さんとの関わりの終わりです。それから先の治療がない人の人生には向き合いません。医学はその想いに応えることは難しいのでしょうか。今の医療現場では、治療法があるうちは医療に死が隠されていますが、治療法がなくなり、医療から切り離された瞬間に死を

意識しなければなりません。だから、なかなか「死」を受け止められないのだと思います。

今の私の家族は、両親と夫です。2009年に別棟で暮らしている両親が相次いで要介護となり、夫も大病をして2度の入院を経験しています。家族のいのちを思う毎日、今は綱渡りのような日々です。

患者さんとの関わりや家人の介護を経験した中で思ったのは、私たちには「生きること」「看取ること（悲嘆は大切な仕事）」「死ぬこと（老いること）」の3つの大きな仕事があるということでした。

「死」は病ではなく、自然なことです。誰もがいのちを終える存在である私たちに、治療法がなくなる時は必ず来ます。その時「治療法がない」と考えず、「人生を終える」と考えた時、「いのちの終わり」に向き合えるのだと思います。「医療」から見た死は敗北ですが、「いのち」から見た死は自然です。病人として、医療の中でいのちを落とすのか、人としていのちを終えるのか。

いのちと医療との関わりは、誰が決めるのでもない、自分自身の答えが必要です。医療への思いに疑問がわいたり、戸惑ったりし始めて自分の思いから離れたら、そこからは、いのちのことを考える時間にしたいと思っています。

2008年には、患者の部位・地域を問わず、誰でも参加していただける患者会を立ち上げました。患者会のお約束は次の3つです。

1. お互いのプライバシーを守りましょう。

1. 参加者の発言は参考に留め、迷った時は主治医に聞きましょう。

1. 特定の宗教・思想や健康食品・代替療法を押し付けないようにしましょう。

患者さんにとって、治療をどのように選択するかは、生き方そのものです。治療も含めて自分にふさわしい生活の在り

方を知りたいのです。今後は、在宅も進むので、ますます医療（病院）と生活（住居）を結ぶ場が必要となります。2013年からは、患者会の方々からの「いつでもだれでも自由に集える場所が欲しい」という声に応え、自宅横の元喫茶店を改装して「がん患者サロン」を行っています。

ここでは、旬の食材を使った普通の家庭料理を提供し、気軽にお話のできる場作りをしています。サロンでは、共に食べることで安心し、少しでも元気になっていただけるように願っています。その様子は、NHK:Eテレの「こころの時代～宗教・人生～「普通」の今を生きる」として、2016.7.24に放送されました（放送内容の一部を観賞）。

また2008年から、名古屋芸術大学非常勤講師として、年30回「医療（いのち）と美術」の授業を行っています。患者さんに向き合い、いのちを考えることは、若い学生さんには大変なことのようなのです。しかし30回の授業を受ける中で、患者さんも普通の人であることを知ります。そして、私たちも必ずいのちを終える同じ存在として、患者さんには、「優しさや癒し」という安易な考えで向き合うのではなく、「同じ人として」向きあうことが大切であることなどを学びます。いのちを思う絵など、授業の成果は、がんセンター愛知病院通路や緩和ケア病棟に展示されます。その作品やメッセージは、「いのちときぼうのアート展」（学生の作品とメッセージ・がん医療情報展示）とし、NHKの「ホットイブニング」で放送されました（放送内容を観賞）。

昔は、家族を家で看取るのが普通で、老いから死を自然に受け止めることができました。体の弱りは、死への準備でした。旅行に行くには色々調べて準備をするのに、医療だけは病院にお任せ。わからないと医療に求めすぎでしまい、求めるものが大きいと医療に絶望してしまいます。

私たちには人生の最期の一瞬まで仕事が残されています。「老いること」と「死ぬこと」をどのように見せていくのかは、最後の大きな「仕事」です。ぜひ冷静に考えられる元気なうちに、「いのちと医療の関わり」をどこまでにするか自身の答えを考え、それを周りの方に必ず伝えていただきたく思っています。

「医療も、いのちも、もっと、自由になりますように」

図書館で「大腸がん」について調べてみました。検索機で「大腸がん」と入力すると、関係のない本の名前がずらりと並びます。近くの職員に聞くと、最初は「大腸がん」で検索して同じ結果です。「治療とかですか」と聞かれ、「はい」と応えると検索で本の名前が出てきます。印刷されたものを持って、どこにあるかを聞きに1階に行き、どこに本があるかを聞くと本棚までつれて行って下さいました。

本は、少なくはないが多くもあります。「医療情報コーナー」の案内チラシがありました。そこに「相談事例のご紹介」として書かれていた内容は、職員が質問に直接応えるのではなく、その内容の記述のある本を探すとということがわからない内容になっているのは、誤解を招くかと思いました。

## 金田 × 神代 対談：病気(がん)と図書館

神代：お話を伺って感じたのは、図書館は病気に対して3つの視点からアプローチできるということです。一つ目は「医療と図書館」、二つ目は「治療と生活と図書館」、そして三つ目が「古い・死と図書館」です。

金田：図書館に置いてある本は、「図書館が薦める本」というイメージが強いかもしれませんが。新聞や週刊誌など、医療情報はあふれていますが、正しく情報を受け取れるかどうかですね。



神代：選書に関して市民に意見を聞くということは何ですか？

金田：聞かれたことはありませんね。図書館と利用者と専門家による選書態勢があるといいですね。

神代：先ほど「食べることは生きること」というお話がありました。個々のニーズに合った食の本というのは、なかなかないですね。今日は、NPO法人キャンサーリボンの『乳がんの人のための日常レシピ』という本を紹介していますが、図書館にない資料を作り出していくことも必要です。一般の書店にないものをいかに集めるかということも、図書館の腕の見せ所ではないかと思えます。

金田：患者さんに対し病院にできることは限られています。治療以外にも身体をよくするものはたくさんありますので、図書館で、患者の視点ではなく生活者としての視点で情報を得られれば、視野も広がります。

闘病記もおすすめです。人の闘病記を読んで、自分の病に向き合い、確認していくことで立ち直ることもできます。ただ個別性が強いので、そこにはご自身の判断が重要です。

患者さんは情報だけを求めているのではなく、安心できる場も探しています。街の中のあちこちに安心できる場所があるといいですし、図書館もその中の一つになるといいですね。

Q：病気のことを知られたくないので、やはりレファレンスは利用しにくいし、OPACは大変使いにくいので、図書館にストレスを感じている。調べ方のコツをもう少しスマートに情報提供できないものか。

神代：ある程度自分一人で調べられるような手引き(図書館界の用語で「パスファインダー」)を作成し、医療健康情報コーナーに置いたり、HPで公開したりしている図書館(※)はいくつもありますので、参考にしていただければと思います。(※ 鳥取県立図書館 <http://www.library.pref.tottori.jp/health/cat3/>)

Q：夫が「がん」で、こういう話を一緒に聞きに来られるといいのですが、精神的に弱くて、話を聞くのが怖いというのです。もっと病気のことを知ってもらいたいと思うのですが、知ろうとしません。

金田：知ろうとすることが、いいとか悪いという判断はあまり問題ではありません。知らないことが全く不利益ということではなく、医者任せでかえって良かったという人も反対にいらっしゃいます。知っている、知らない、それぞれの良さがあります。

ただ、男性は確かに弱いですね。女性は一人で病院に行けますが、男性には大概妻が付き添っています。また、患者会の参加は90%が女性です。女性は誰でも仲良くなりますし、話をするだけで元気になる方も多くあります。反対に、男性は組織や手法を先に考えてしまい、患者会を難しく思う方が多く気軽にはこられないようです。

金田：治療を終えるということは、諦めるということではありません。それは、いのちへの積極的な考え方です。いのちの終わりを医療任せでは、「いのち」を全うすることはできません。一人一人がそれぞれに、自分なりの答えを見つけなければいけないことだと思います。そこには治療法の他にも家族の在り方、人生観など、様々な視点が必要です。

「般若信教」から「食事の作り方」まで、幅広く知ることができる図書館をうまく利用できればよいですが、そのためには職員の方々にも、蔵書を探すこと以外の姿勢も必要となってくると思います。「いのち」を大切にすることの意味を問いかけながら皆様と考え続けたいと思います。



## りぶら中央図書館情報

## 読書通帳サービスをはじめました！

岡崎信用金庫からの寄附を受け、中央図書館では1月28日（土）から読書通帳サービスを開始しました。通帳を作成すれば銀行の預金通帳のように読書履歴を記録できるようになります。対象は岡崎市内に在住もしくは在学している小学生と中学生で、子ども図書室のカウンターで作成できます。「本を借りる」→「記帳する」を繰り返して思い出をためていきましょう。

読書通帳を使い切った方には、先着700名様限定でオリジナルトートバッグを差し上げます。

担当：中央図書館総務班（電話 23-3103）



読書通帳機



読書通帳



トートバッグ

## 中央図書館1階レファレンスカウンター「レファレンス事例集」

川の名前と違い、山の名前は「〇〇ヤマ」や「〇〇サン」など、読み方がいろいろあって迷うことがあります。今回は麓の桑谷山荘が長く市民に親しまれた、「桑谷山」に関する事例をご紹介します。



質問	「桑谷山」について「くわがいさん」と読んでいるが、正しいか？
回答	<p>【資料1】 p.521 「くわがい 桑谷」と記載あり。「桑谷山」については記載なし。</p> <p>【資料2】 p.148 「くわがいやまのでんきせき 桑谷山の電気石」と記載あり。</p> <p>【資料3】 p.72-75 「くわがいやま」と記載あり。</p> <p>【資料4】 p.105 「桑谷山 くわがいさん」と記載あり。</p> <p>【資料5】 p.226 「桑谷山 クワタニヤマ」と記載あり。</p> <p>その他、【資料6】【資料7】で「やま」と「さん」の違いについて記載あり。</p>
キーワード	「山」、「山岳」、「山名」、「地名」
参考資料	<p>【資料1】 『角川日本地名大辞典 愛知県 23』 角川書店 / 1989年 / A290 力</p> <p>【資料2】 『新編岡崎市史 20』 新編岡崎市史編さん委員会 / 編 新編岡崎市史編さん委員会 / 1993年 / AO233 シ</p> <p>【資料3】 『ふるさとの山河』 ふるさとの山河編集委員会 編・発行 / 1984年 / AO293 フ</p> <p>【資料4】 『東海登山口情報 300』 全国登山口調査会 / 編 / 風媒社 / 2013年 / A290 ト</p> <p>【資料5】 『奥三河の山旅』 沖允人 著・発行 / 1990年 / A290 才</p> <p>【資料6】 『山名の不思議』 谷有二 / 平凡社 / 2003年 / G291.0 サ</p> <p>【資料7】 『山の名前っておもしろい!』 大武美緒子 / 実業之日本社 / 2015年 / N291.0 ヤ</p>

## 内田修ジャズコレクション総集編 CHRONICLE 好評発売中です !!

市制 100 周年記念事業で制作した CD 付き BOOK「内田修ジャズコレクション CHRONICLE」が、好評発売中です。今作は総集編として、監修佐藤允彦氏（ジャズピアニスト、作・編曲家）によるヤマハジャズクラブ等の貴重な資料音源 CD、小川隆夫氏（ジャズ評論家）によるライナーノーツ、秋吉敏子、ケイコ・リーらミュージシャンによる証言や内田氏と長年親交があった関係者等の対談・寄贈を受け、岡崎市で収蔵しているプライベートテープ目録を掲載した、資料音源 CD 付き BOOK です。

資料音源も幅広く、アメリカから一時帰国していた秋吉敏子が演奏した 1965 年の第 4 回ヤマハ・ジャズ・クラブや、バークリー音楽院留学から帰国した渡辺貞夫の同クラブにおける演奏、1993 年岡崎市中央総合公園で開催されたヒルトップ・ジャズ・フェスティバルに登場したケイコ・リー、さらにヤマハ・ジャズ・クラブ 150 回記念コンサートでの綾戸智恵の弾き語り等、多彩な貴重音源が収録されています。

この「CHRONICLE」は内田修ジャズコレクション展示室にて販売していますが、事前振込または現金書留による遠方からの購入も可能です。価格は 1 枚 3,000 円で 1,500 枚の限定販売（なくなり次第終了）。ぜひ手にとっていただきたい資料です。

※ 内田修氏は昨年 12 月 11 日、87 年の生涯を閉じました。



担当：中央図書館企画班（電話 23-3167）



### 新世紀岡崎 チャレンジ 100 事業 「困ったときには図書館へ」 全 6 回連続講演会を開催しました

昨年 2 月から進めてきた「困ったときには図書館へ」の連続講演会を終了しました。最終回だった 2 月 19 日の対談も、それまでと同じようにやや少ない参加者ではありましたが、対談の内容や参加された方々の感想に励まされています。

神代氏・岡本氏の両講師からいただいた、「それで図書館はどういう結果を出すのか」という課題は、そのまま「それでりぶらサポータークラブはどういう結果を出すのか」と、問われたものと受け止めました。今後も、図書館・利用者共に、さらにコミュニケーションを深めていけたらと思います。2/19 の概要は 6/1 号に掲載予定です。







## 私の一冊 vol.39

# 「赤毛のアン」 モンゴメリ作 / 村岡花子訳 ポプラ社

世界中で愛され、多くの人に読まれ続けている「赤毛のアン」。あまりにも有名なこの作品を初めて読んだのは、大学2年生になってから。しかも、英語で書かれた原作の「ANNE of GREEN GABLES」でした。というのも、必修単位の授業の内容が、原作を翻訳するというものだったからです。

限られた時間内で1冊を読破しなければならず、辞書とにらめっこしながらの、読書というより、もはや「作業」でした。最初に日本語で読んでおけば分かりが早かったでしょうが…。そんな物語との出会いだったのですが、今ではこの作品が「わたしの一冊」になりました。

主人公のアンは、空想が大好きな女の子です。きらびやかな家具がたくさん置いてある部屋より、ほとんど何も置かれていない質素な部屋のほうが、空想の余地がたっぷりあるから好きだというほどです。物語中のほとんどの場面でアンが空想が繰り広げられるため、アンが空想を始めると、「また空想してる…」と私は少し呆れた気分になります。読み進めるうち、いつしかアンが空想の虜になっているのです。やはり、さすが名作です！知らぬうちに引き込まれていました。

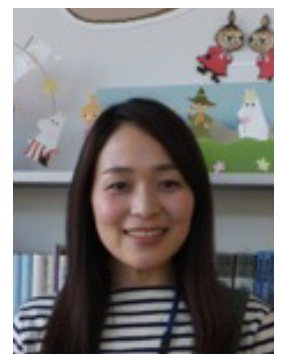
物語は、アンが孤児院からカナダのプリンスエドワード島のアヴォンリーに住む、マシュウとマリラという初老の兄妹に引き取られるところから始まります。アンは自然豊かな美しい村で、両親がわりの二人から愛情を受けながら、少女から大人の女性

へと成長していきます。アンに出会ってからのマシュウとマリラの心の変化も、物語の大切な役割を担っています。

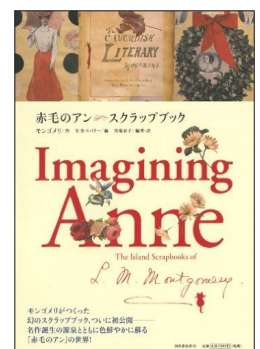
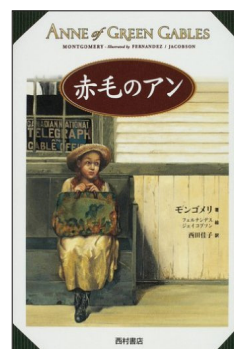
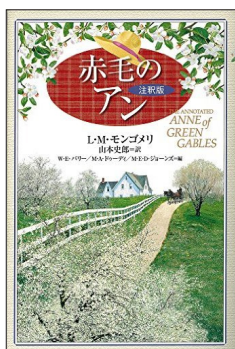
他にも、アンが親友や恋人、そのほか近所のおばさんまで、個性豊かで素晴らしい登場人物が物語を盛り上げます（個人的にはマシュウが一番好きです！）。アヴォンリーの人々が、空想好きで素直で自由奔放なアンに良い意味で翻弄される場所は必見です。

孤独だったアンが、自然豊かで空想し放題の素敵な土地で、愛する人々との出会いと別れから大きく成長する姿が細かく丁寧に書かれています。アンが空想のおかげもあって、物語の風景や情景が、映像を見ているようにわかるので、まるでその場にいるかのような気持ちになります。

昨年改めて「赤毛のアン」とその続きのシリーズを読んでみました。物語中、アンが夢の実現のため、マシュウとマリラのもとを離れる場面があるのですが、社会人一年目として新しい環境に飛び込んだ自分と重ね合わせて読み、アンの前向きな生き方に元気と勇気をもたらすことができました。新しいことに挑戦するとき、出会いと別れを経験したときなど、これからも「わたしの一冊」として何度も読み返し、アンに力をもらいたいと思います。



梅田 里菜（うめだりな）  
社会人、図書館勤務  
ともに一年目。子ども  
図書室を担当していま  
す。生涯学習の拠点リ  
ぶらで、ボランティア  
や市民の皆様など多く  
の方々を支えていただ  
きながら、図書館や児  
童サービスについて、  
日々勉強中です。



## 市民活動団体紹介

### 「四字熟語かるた」「脳トレ “さーま 85”」で健康寿命を楽しもう

伊藤ふで：0564-71-2344 jcgtg178@ybb.ne.jp



名古屋から西尾市を経て、岡崎に終の棲家を立てて引っ越してきました。早く地域になじむにはどうしたらよいかと考え、自宅で行っていた遊びをアレンジした「四字熟語かるた」を携え、平成18年の6月から活動を始めました。「四字熟語かるた」は4歳以上を対象に、誰にでも役立つ四字熟語を覚えることができます。また、高齢者にとっては、親しんできた四字熟語に触れることで、思考や判断力を高めたり持続させることができます。世代を超えて楽しめる遊びとして、『チャレンジで頭と心をスッキリ。今日も元気、元気!!』をキャッチフレーズにしています。

また平成25年からは、85枚の様々なカードを使った遊び「脳トレ“さーま85”」も開発しました。こちらは主に、デイサービスセンターや高齢者の集いなどで活用されています。NHKの「ほっとイブニング」で紹介されたあと、「おはようニッポン」でも紹介され、カードを売ってほしいというお話もありましたが、売れるものではありません。その後、東北の津波があり、その時にご縁のあった宮城に自ら出かけ、社会福祉協議会などへ申し出て、被災地域で“さーま85”のカードを寄付しながらボランティア活動を行いました。

現在会員が7名いますが、ほとんどの活動を一人で行っています。今後はどちらの活動も需要が高まっていますので、一緒に活動・サポートしてくれる方を募集しています。

活動	四字熟語かるた	脳トレ “さーま 85”
内容	四字熟語が書かれた親カードを見ながら、同じ四字熟語が書かれた子カードを探し取ります。 読み・意味・漢字・対義語・類義語を知り、諺・空白文字入れ・数字でできた四字熟語など、色々な出題で四字熟語を身につけていきます（参加グループによりカードの大きさや出題が異なります）。 児童には注意力・集中力を養い、四字熟語を知る糸口とし、また中学生以上には受験、雑学として利用できるように漢検1級まで対応しています。	両面に文字・記号・数字・漢字が記された、1人85枚のカードを使うゲームです。最初に上半身や手・指の体操を行い、回答にちなんだ話題や歌などを取り入れて、全員が参加できるように心がけています。指の運動や全ての方が過去に必ず経験し慣れ親しんでいる事柄をトレーニングする事で、思考や判断力が高まり、脳が活性化されます。
履歴と現在	西尾市教育委員会平成19年4月～（毎月2回） 岡崎市小学校平成19年2月～（年間13回） 市内子供の家（ランドセル下校児） 平成22年～（毎月1回・11か所） シビックセンター生涯学習平成24年5月～（毎月1回） 地域交流センター等イベント（年間約10回） りぶら講座・光ヶ丘高校（5年間） 名古屋私立サマーセミナー（年1回） 宮城県内児童館（平成27年7月16日～30日6か所）	デイサービスセンター平成25年4月～（毎月1回・8か所） 高齢者の集い・サロン・生き生きクラブ等（年間5回） 宮城県内高齢者・デイサービス（平成27年7月16日～30日・22か所） 中部善意銀行・各施設イベント（3回）







## 外国人が日本語の歌を歌うのだ自慢大会 vol. 7 結果発表

2月5日(日)、第7回目となる「外国人が日本語の歌を歌うのだ自慢大会」が開催されました。今回の出演申込者は11名で、これまでに比べやや少なく、岡崎在住者よりも市外の方が多くなりました。来場者からもイベントの趣旨に合わせ、岡崎在住の方を多くという感想をいただきましたが、参加枠を埋めるのが精一杯というのが現状です。しかし、それぞれの国籍は9カ国にわたり、国際交流という目的は達せられたと思います。また、今回初めて表千家茶道「白珪」にご協力をいただき、参加者の皆様にお抹茶を提供することができました。

毎回、レベルの高い大会になっていて、審査員の先生方には、点数をつけがたいと言われます。今年の優勝者アンディカジャル スンバダさんは、昨年は審査員賞でした。また、今年審査員賞のワヒュディンさんは昨年は参加賞でしたので、2年目の参加となった今年、歌も日本語も、とても上達したのだと思いました。

	出演者氏名	国籍	曲目	結果
1	グエン ホアン チャン	ベトナム	夢と葉桜	参加賞
2	セタ	U.S.A	3月9日	参加賞
3	フリスカ クリスタ アスリ	インドネシア	多分、風	参加賞
4	森口 モニカ	フィリピン	浪花節だよ人生は 見上げてごらん夜の星を	入賞
5	王 宜莉 (オウイリ)	中国	海燕 雨の御堂筋	入賞
6	タミリィ ナカヤ	ブラジル	precious rescue me 君がいたから	入賞
7	ワヒュ ディン	インドネシア	海の声 ペガサス幻想	審査員賞
8	チュウアインハウ	ベトナム	大きな古時計	参加賞
9	ダハル オザスビ	ネパール	ハナミズキ	参加賞
10	孟慶洋 (モウケイヨウ)	中国	世界が終るまでは	参加賞
11	アンディカ ジャル スンバダ	インドネシア	the fourth avenue café キン肉マン go fight	優勝

【司 会】大島光子 (FMおかざき)

【審査員】 柏木典子 (岡崎音楽家協会代表)  
陽呼こじま (全国詩曲音楽連盟理事・作詞家)  
滝沢のぼる (歌手)  
杉浦寮子 (リバーシブル編集長)  
石川真澄 (岡崎市文化芸術部長)  
杉浦仁美 (LSC 代表)

【ゲスト】北川琢美 (前年度優勝者)

【賞 品】 優勝者賞：自転車&りぶらグッズ  
審査員賞：ホットプレート&りぶらグッズ  
入 賞：図書券&りぶらグッズ  
参加賞：りぶらグッズ

【参加者】 出演者 11名 ゲスト 2名  
審査員 6名 司会者 1名  
LSC スタッフ&サポーター 10名  
Viva おかざき!! 2名 国際交流部会 5名  
ボランティア 7名 白珪 5名 職員 2名  
来場者 150名



↑ 優勝  
アンディカ ジャル スンバダさん



↑ 審査員賞  
ワヒュ ディンさん